

204-A-4
1

長春附近ノ戦况

一般指勢

日本鉄道守備兵ト中国軍隊ハ九月十八日午
後十時少シ過ヤ、中国正規兵ガ、満鉄々道線路ノ
一部ヲ爆破シタリ、奉天附近ヲ衝突シタリ、長春
ハ、多數ノ日本將校及心在市民ガ、同夜鈴木大
將ノ方ニ備サレタ飲迎会ニ、登ク迄列席シテ居タリ。

十九日午前零時十五分頃、即チ奉天ニ於テ事件
發生ノ二時同後、長春守備隊司令官長谷部少將
ハ、中同ト日本ノ軍隊ガ、奉天ヲ衝突シ、高登烈ナ
戦用ヲ继续中ナル旨、満鉄事務所ノ一使用人カラ
電話ヲ報告シタリ。

此ノ報告ヲ受ケルヤ、長谷部少將ハ、部下ヲ緊急

召集し、且つ奉天ニ托ケル戦用ニ参加スル者、部下
 ト夫ニ同地ヘ向フニトニ決シタノヲ、列車ヲ阻テ備スル
 撮、鉄道職員ニ要ホシタ。ソノ時ノ長春ノ日本軍ハ
 略九百名ヲ、鉄道守備隊ノ一中隊トシテ解隊ノ
 二個大隊カラ成ツテ居タ。若シ同ノ將變下ノ主力ガ
 奉天ヘ行コトヲヘバ、独立守備隊ノ唯一個中隊(百
 五十名)ガ長春守備ニ残ルコトニナツタノデアリ。

當時長春ノ南に四米ノ南嶺ニハ、一師隊ノ中
 隊(二千三百名)ト野砲三十門ヲ有スル砲兵一
 師隊(千三百名)カアリ。中国町ニハ、歩兵二大隊
 (千名)又ニ千米北方ノ寛城子兵營ニハ六百ノ中
 隊歩兵ガ居タ、中国軍ノ總數ハ人員約五万、野砲
 三十門デアッタ。

中国人側ノ日本人ニ対スル反感ハ、當時頂点ニ達
 シ、中村大尉殺害事件、万宝山及び平原兩事
 件、及び青島ノ衝突事件ノ外ニ、昨年八月カラ
 九月中旬迄ノ間ニ、幾多ノ事件が発生シテ居ル中
 國軍ハ過去十年間毎年戦フテ居テ、実地ノ戦用
 ニ良ク慣レテ居ルガ、日本軍ハ全然一経験カナイカラ
 日本軍ヲ戰敗ルニトハ中國軍ニ取ツテ容易デ
 アラウト、一甲國將校ハ自慢シテ居テ、南嶺ノ
 砲兵ハ日本租借地ノ中心ニアル、市ノ給水ポンク
 ヲ、訓練ノ時ノ目標ニシテ居テ、其ノ前隊司令
 官ハ、日本軍ハ小銃外何モ持ツテ居テ、カラ、日本
 ノ租借地ハ中國ノ砲兵ノ攻重テニ時同由ニ破壊
 サレテ了ラフテアラウト、豪傑シクエトカアル。敵ノ砲

4

ノ射程距離由ニ居ル一万百名ノ日本人ノ生命ハ
切迫セシ危険ニ曝サレテ居タリテアル。

衝突ハ起ツタ……救援ノクム奉天ニ向ケ出發セン……
殘ルハ鉄道守備兵一五〇ノミ……五〇〇ノ支那兵、三六門ノ
野砲……一〇〇〇ノ日本人ハ敵砲ヲ擬セラレテ熟睡中……

日本軍ハ夜蔭ニ行動セント準備中ナリ。

一五〇名ノ我が正規兵並ニ三五〇名ノ志願兵ヲ以テ支那軍
ニ抵抗シ、一万以上ノ同胞ノ生命ヲ煉瓦造リノ彼等ノ家ノ
中ニハレタマヘ守ルコトハ可能デアルカモ知レナイ、然シ彼等
ハ敵軍ノ三六門ノ野砲(七五糎米)ニ対シテハ無防禦デアルソ
レ故、若シ日本軍主力ガ奉天ニ向ケ長春ヲ出發スルニハ何
トシテモ敵ノ野砲ヲ無力ニセネバナラナカッタノデアル、其ノ
為長谷部中將ハ十九日午前零時ニ〇分歩兵第四聯隊
第二大隊長黒石中佐ニ対シニ個中隊(二〇〇名)ヲ連レ南
嶺ニ在ル敵歩兵ヲ襲フベク命令ヲシタ。二〇〇名ノ勇士ハ
夜蔭ニ乘ジ南嶺ニ向ヒ前進シタ、該地ニハ三六〇ノ歩兵
ト砲兵部隊ガ敵兵營ニ在ツタ。

殘余ノ我軍ハ奉天ニ向ツテ乘車スル準備ニ忙シカツタ、ソシ
テ驛員連ハ汽車ヲ任立テルコトニ従事シテ居タ。

午前三〇五分長谷部中將ハ関東軍司令部官ヨリ長春
ヲ防備シ、歩兵第四聯隊及騎兵中隊ヲ以テ長春附近
ニ支那軍ヲ襲撃スル準備ヲナスベシトイフ趣旨ノ電報ヲ
受取ツタ。其ノ時彼ハ奉天ノ戦鬪ハ有利ニ展開シツ
タルコトヲ知ツタ。

上述ノ如ク旅團長ハ攻撃ヲ準備ヲ命セラレタ。然シ
 中國軍並ニ日本軍ハ既ニ天奉ニ於テ衝突シテ斗タ。
 ソシテ彼ノ部下ノ一部分ハ南山嶺ノ中國軍ヲ武装
 解除スルタメニ派遣サレタ。指揮官ハ彼ノ部下
 ニ數倍スル中國軍ニ準備ヲ許スコトハ非常ニ
 不得策ダト考ヘタ。ソシテ敵ノ機先ヲ制スルタメ
 攻撃ヲ實施スルコトハ必西女デアツタ。斯ク
 テ午前三時十分指揮官ハ停車所ニ居タ。某
 四聯隊長子爵陸軍大佐大島ニ寛城子
 攻撃ヲ命ジタ。

日本軍ノ一部ハ南山嶺ヲ攻撃スル筈デアリ他
 ノ一部ハ寛城子ヲ攻撃スル筈デアツタ。若シ
 我々ノ部下ガ軍ニ線路沿線ニ令散セル集
 團ヲ以テ鉄道ヲ防禦シソシテ中國軍ガ

7
攻撃ヲ加ヘテ来ルノヲ待ツテ升タノテハ五千名
ノ敵軍ニ対シ僅カ九百名ノ部下デ広大ナル鉄道
線路我カ租界及我カ居留民ヲ護ル事ハ不
可能デアツタノデアル。

「最善ノ防禦ハ攻撃ニ在リ」トイフ諺ガアル。而
シテ特ニ此ノ場合ニ於ケル如ク敵ガ数ニ於テ
遙カニ優勢カナル時ハ然リデアル。子爵陸
軍大佐大島指揮下ノ第四歩兵聯隊ノ四
中隊（一中隊ハ九十乃至百名カラ成ル）ハ夜陰ニ
乘ジテ寛城子ニ向ケ進軍シタ。

南嶺 兵營夜襲

南嶺ニ於ケル敵砲兵、兵營ヲ夜襲スル為 午前

三時十分 告兵和四聯隊 黒石少佐指揮下、和五及

和七中隊(機銃二挺備)が出發シ、午前五時頃 南嶺

兵營、西北隅附近ニ到着シテ、ソレテ和七中隊ハ北及

西八ヨリ砲兵和一大隊、兵倉ニ突入シテ、我和五

中隊ハ兵倉、西北端ヨリ(看村番ヲ各ケテ)村番

ヲセズ同兵倉ニ突入シテ、兵倉ニ居テ中華民國人ハ

小銃及輕銃ヲ猛烈ニ抵抗シテ後 南八ヨリ途ニ道

走リテ、吾軍ハ其處デ砲ヲ十ニハ破壊シ、次ノ

兵倉ニ亂入シヨウトシテ、然レ夜ハ既ニ明ケテノデ 地

諸兵倉及歩兵、兵倉ヨリノ敵、十字砲火ヲ受ケテ

阻止セリ。此、様々状況デアリテ大隊、者ハ兵舎
 ノ西ニ在ル村落迄撤退シナケルナラナカリ。午前八時
 ニ二分ニ其處ニ集合シ負傷者ニ午當リ加ヘ兵力ヲ再
 整備シ。下度其時、一及三中队（オガワラ中
 佐指揮下、鐵道警備隊一大隊、三百名）ガ公主嶺
 ヲ到着シ。此、二各、大隊長ハ協議、結果
 「オガワラ」大隊ハ右側、黒石大隊ハ左側ヨリ中隊
 兵舎、歩兵兵舎ヲ攻撃スル事ニ決定シ。

午前十時五分頃、高粱畑キヲ遮蔽シテ、
 黒石大隊ハ四百米迄敵ニ接近シテ時、築堤ニ傍
 護セテ敵カラ小銃、砲友迫撃砲ヲ猛烈ニ一斉

射来ヲ受ケタ。 敵、砲火ガ我兵ノ頭上ニ飛来シ

テ、我兵ハ築堤ノ西端ニ突入シテガ 其處

テ、敵ノ頑強ニ抵抗シタ。 我軍ハ午後ニ時頃迄

午獨彈ヲ其處テ戦ヒ續ケタ。 オガワラシ大隊ハ

高粱ト低地ヲ利シテ 敵ノ前オ百米マデ射来モ

ニテハニ接近シタ。 敵ハ二十乃至三十米迄接近

シテ時ニ壁ノ銃眼カラ我軍ヲ射来シテ、我軍ハ

此ノ以上ハ帆布ガ出来ナカッタ。 壁ノ處マデ行ッテ

数人、我兵モ其ヲ越ス布ガ出来ナカッタ。(其處ハ

高サ三米厚サ四寸板デカッタ) 此ノ様ナ思ハシクナイ

状態、下テ彼等ハ戦鬪ヲ續ケナケルオラナカッタ。

~~10~~
11

大隊長、重傷ヲ負ヒ、
第三中隊長倉本大尉ハ
戦死シタ。此ノ様ニ死傷者ガ多数アリ、
拘ラズ時
兵ハ一度得テ此ノ陣地ヲ固守シタ。

抑

敵八午後二時頃退却ヲ開始シ我軍八四時
前後ニ全兵舎ヲ占領シタ。本戦闘ニ於テ我軍
八砲三十六門ヲ悉ク破壊シ約三万ノ砲彈ヲ爆発
セシメタ。

我方損害口次ノ如シ。

步兵ヲ四聯隊ヲニ大隊	戰死	負傷
ヲ一大隊鐵道警備隊	五	十六
	三十八	三十九

計	四十三	五十五
		(内將校三)	(内將校三)

中軍軍中退却ニ棄死傷約二百軍馬二百三十。

寬城子攻撃

警戒備区域附近ノ一地兵ヲ出發セル兵力ハ北進シ午
前四時五分兵舎ニ突入スベク散開隊形ヲトツタ。
充分準備ヲ整ヘテ斗タ中軍ハ直チニ我軍
ニ向ツテ砲火ヲ浴セ、非常ニ大損害ヲ与ヘタ爲メ、
一步モ前進出来ナカッタ。拂曉我軍ハ一掃射
射撃ヲ開始シテ午後六時頃敵兵舎一角ヲ占領シタ。

中国軍車が雨露西亜風、煉瓦家屋ニ夕テコモル一方
 我將兵ハ掩蔽スルモノナキ平地ニ身ヲ曝シ、從テ日本
 軍ガ甚大ナル損害ヲ蒙ムツタノハ勿論デアール。聯隊
 旗ト共ニ大島大佐ハ散開線、後方(百米)ニ接近
 シ、士氣ヲ鼓舞シタ。斯クニテ聯隊幹部ハ相ツイテ
 負傷シ、聯隊旗又、午九時頃被弾スル所トナツタ。
 指揮官ハ前進ヲ中止シ、山砲ヲ兵舎カラ五百米ノ
 地奥ニ連ビ来ツタ。カクテ、軍ハ山砲ノ射撃手ニ乘
 シ、午九時十分頃、突貫シ、同時ニ敵ハ抵抗ヲ止メ
 テ遁走シタノデアール。三百八十六人ヲ算スル敵ノ大部
 分ハ俘虜トナリ、午九時十一時十分全兵舎モ占據
 スル所トナツタ。

我方ノ損害次ノ如シ。

少兵	四	聯隊	戦死	員傷	計
	二十四			三十三	五十七

(内下士官一名)

中国軍ノ兵舎内ニ於ケル遺毒死体七十。

長春ニ於ケル中國軍ノ日本ニ對スル態度

一、衝突以前、南嶺駐屯砲兵聯隊ノ中國士官ノ態度ハ非常

ニ排戰的且排齊的デアツタ。彼等ハ次ノ様ニ云ツテ居タ。

「我々ハ澤山ノ有力ナ砲ヲ持テ且充分ニ整備シテ居ル。

我々ハ一旦彼等ト衝突シタトキニハ我ガ三十二門ノ大砲ノ

砲火ニ依リ二時間内ニ日本軍兵營ト居留地ヲ火炎上サ

セ日本人ヲ塵殺シ出來ルカラ日本軍ナド恐レシノナイ。

彼等ハ日本附屬地ノ水塔ヲ狙フ厚次ノ標的訓練ヲヤツ

テ對ニ分ニ整備サレテ居タ。

二、南嶺兵營占領後ノ調査ハ次ノコトヲ^指摘シテ居ル。

ハ砲陣ハ大槪火藥庫ニ係管セルモノガ、彼等ノ砲彈

ハ直ニ裝填シ得ル様ニ大砲ノ側ニ兵舎ノ床ノ上ニ

積ンデアッタ。大砲ノ側ニ積ンデアッタ此レ等ノ砲彈ハ

砲火ニ依テ爆裂シテ居ル。砲彈ガ直カ使ヘル様ニ

用意サレテ居タト云フ事實ハ誰モ明白ナリデア

ツタ。

年15

(四) 彼等が歩兵、兵舎ヲ直ク使ヘル様ニ用意サレタ
ク、彈藥ト手榴彈ヲ持ツテ居タコトハ明白テ
アツタ。 彼等ハ煉瓦塀ニ銃眼ヲ作り、塀ノ
内側ニ高サ一米長サニ米ノ架ヲ立ツタ儘
射テル様ニ置イテ居タ。 此レ等ノ足台ハ臨時
的ナ工夫デハナクテ永久的性質ヲ持ツモノアツタ。

此レ等ノ條件ハ尋常ノモノト看做スベトハ
出来ナイ、ソレハ中國人が日本人ニ対シテ充分ニ
準備シタ証拠デアリ殊ニ彼等士官ノ豪
語ト關聯シテ斯ク考察シ得ルノデアル。

三、寛城子旅團司令官ハ日本組界ニ

面スル兵營、東側ト南側ニ塹壕ヲ掘ツテ、

昨年七月カラ戦闘、準備ヲシテ居ツタ。占領

後右兵營、視察テ各室ノ入口ト窓ハ小銃

ノ射撃ヲ容易ニスル様ニ砂囊表テ完全ニ準

備サレテ居タ。兵營間、通路ハ射撃設備

ナル塹壕ヲ結バレテ居タ。澤山、彈藥ガ

兵ノ居住所ニ発見サレタ。之ハ彼等ガ(事件)

勃発前ニ準備シテ居リ又同時ニ彼等ガ

日本軍ニ挑戦シヤウト竟圖シタコトヲ暗示スル。

塔川

四、南山嶺及び寛城子ノ戦闘デハ彼等ハ賤ム

ベキ卑劣ナ行爲ヲ犯シタ、例ヘバ彼等ハ降服

ヲ装ツテ白旗ヲ掲ゲ、我が兵ガ近ヅクト突然

之ニ機銃掃射ヲ浴ビセタ。

五、彼等ニ捕ヘラレタ、我が員傷兵ハ帶革

ヲ縛ラレ、次イテ寸断サレタ。コノ様ナ残虐ト

背信行爲ハ許スベカラザルモノデアリ看過シ

難イモノデアル。